

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく元気良く自分らしくありのまま」という理念を開設時の職員と作り、その後変更していない。地域生活の継続支援と事業所と地域との関係性の強化を望んでいるが、地域密着型サービスの意義を現職員全員で確認しているとは、言い難い。	○	現職員には、日ごろから職員会議などを通して、また地域の方々にも、このような理念をもっと知っていただけるように地域運営推進会議などを通して、伝えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っているが、理念とは結びつきにくい。	○	理念とケアを結びつけていけるように、職員の意識の確認と、情報を確実に周知できるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町内会の会合、地域の集まりやイベントの参加の他、折に触れて事業所の実践を伝えるようにしている。	○	地域の集まりや、イベントへの参加やホームへの訪問や見学などの機会をもっと、増やしていきたい。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買物に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話しをしたりしている。近隣に住む人たちとふれあう機会が多い。	○	今後は、近隣の方々が、ホームに顔を出していただけるようなお付き合いで、ホームをもっと、身近に感じて頂きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は、運動会や祭り等参加していたが、ADLの低下により場所によっては、参加し難い。中学生の訪問や散歩中の園児の立ち寄り等の交流はある。	○	事業者だけでなく、職員や、利用者も参加していただけるような体制作りをしていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。	○	特定の人たちだけではなく、より多くの地域の人たちとの関わりをもてるような、機会を作りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員では自己評価は行えていないが、外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討やサービスの向上につなげるための努力をしている。	○	今後、自己評価は定期的に行ないながら、職員の意識や、内容の解釈の確認をしていながら、改善策を話し合っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。	○	更に、ホームの取り組みを知っていただきながら、活発な意見交換をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現場や利用者の課題解決のためには、市町村の理解や支援など必要なことが多く、そのためには、まず、考え方や実態を市町村担当者によく知ってもらい、考え方や実態を今後、共有していきたい。	○	現場の実態と、市町村の理解との一致を図った上での取り組みをしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者までの情報で、今後職員全員に周知を図りたい	○	会議や、研修会や資料等も活用しながら、職員全体にも周知していきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。	○	実際の日々のケアをモニタリングしながら、職員個々が虐待防止の徹底を図っていきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、本人を交えて家族等と対応方針を相談している。	○	契約時に、起こりうる、または予測される事態を挙げながら、具体的に説明している。また、「グループホーム」のサービスがどのようなものか、介護保険の法も紐解きながら、ご理解いただけるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を1度/月派遣してもらい、利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考にしている。	○	利用者の代弁者に、どれだけなれるのか、月に1度の相談員の方の派遣だけでは、限界がある。利用者意見の反映には日々関わる職員や、家族の声をくみあげていけ仕組みも必要である。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りの発行、2~3月に1度、担当スタッフより家族便りにて様子を知らせているが、職員の移動は伝えていない。	○	「月次報告書」という、形で報告している。写真を載せてレクレーションの様子や、ご家族にお伝えしたいことなども一緒に添えてお渡ししている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。	○	実際は、ご家族には訪問時の生活しか見えないので、なるだけ声をかけながら、ご様子を説明したり、一緒にケアを考え、意見、要望を聞けるように配慮している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握しきれない可能性もある。	○	職員の意見や要望を聞けるような、仕組みを作っていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、起床時や就寝時、夜間入浴等、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。	○	行事や、ホーム全体の外出時なども人数を増やし調整をはかっている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はホームのすぐ近くに住んでおり、利用者、御家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	○	離職を最小限にする為にも、ホームの理念をしっかりと理解し、同じ方向性を目指したケアを提供できるように、OJTの強化をはかりたい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修とともに、職員が働きながら技術や知識を身につけていくための工夫をしている。ヘルパー2級講座の受講、ケアセミナーの受講。	○	資格の取得の機会を提供しながら、勤務を継続しながら学べるような配慮をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の連絡協議会への参加や、市内のホーム職員のみで構成された勉強会などにも参加している。	○	より、多くの職員が、交流できるように、参加できる機会を作って生きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換ができるよう、休憩時間を確保している。	○	皆が一緒に集まった職員会議の後などに、食事を主催したり、毎日の休憩時間にコーヒータムを作ったり配慮を行なっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。	○	職員個々の、良きところを伸ばしていけるように、長いスタンスで職員の指導を考えている。
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。	○	本人の本音(気持ちの部分)を、この初期の段階で理解するのは、かなり困難であるが、一人の職員だけでなく、複数で面会することで対応を考えることが可能である。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。	○	担当のケアマネからも、情報収集をしながら最大限のケアが提供できるように考慮する。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。	○	職員や、連携医療機関等とも話し合いながら、ご本人、ご家族にとって最良の方法を提示できるように努力をする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐ利用になった場合には、ご家族やそれまでかかわっていた関係者に来てもらうなどして、安心感を持ってもらうようしている。	○	ご家族の協力を得ながら、面会を通して安心感をもてるようにし、ホーム以前の生活形態をアセスメントしながら配慮していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活全てにおいて、支えあえているとはいえないが、利用者の残存能力を、生かさせてもらいながら互いに、協働し和やかな生活ができるように努めている。	○	あくまで年長者であり、人生の先輩であることをしっかりと、念頭において、支援する側、される側という意識は持たず、ケアの提供をさせて頂きながら、利用者から、多くのことを学ばせて頂いているということ職員全員きちんと、意識していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している。	○	職員が家族の思いを知る機会を作っけいながら、情報を皆で共有しながらケアが提供できるように努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談するとともに、来訪時は、ご本人とご家族の潤滑油になるよう心掛けている。	○	家族との関わりが縁遠くならないように、時には、電話で連絡を取り合いながら、面会の機会を作っけ頂いたりもしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2ヶ月に1度、地元の理容店に低料金で来てもらっている。また個々平等な支援とはいえないが近所の利用者さん宅へ柿契りに行ったり、面会だけだ無く、希望があれば、ご家族の協力を得て外出もしていただいている。	○	散歩に出かけても、近所の友人の方と、庭先で話をしたり、親類の方が飼う鯉を見に行ったりなど行なっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。	○	相性なども配慮しながら、食事のテーブルと椅子の配置や、ドライブ時の車の座席も考えている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅へ帰られ、在宅でサービスの変更をした方も、現在のご様子を電話で伺ったりし、関係を維持している。	○	家族とも気軽に話が出来る関係を築きながら、ホームでの生活は在宅生活への一つの過程、生かしていけるようにホームとして、協力させて頂きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	○	入居期間が長くなっていくと、言葉で表現できない部分もご様子全体から、理解できるようになってきている。新規の職員にも情報を提供しながら、モデリングによってケアの質を上げる配慮をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者などから聞き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしていたかを聴いている。	○	なるだけ、入居前には生活環境の把握が出来るように、自宅、施設等に訪問させて頂きながら、実際の目で確認するようにしている。それから、きちんとキーパーソンより、聞き取りをしながら情報収集が出来るようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員がまだ、利用者全員の状態を把握しているとは言い難いが、カンファレンスや相互に情報交換しながら把握できるようにしている段階である。	○	それぞれ、職員の気づきや、意見を集めて、総合的に判断しながら把握につとめている。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。	○	管理者、職員やご家族から意見を聴取しながら、日々行なわれているカンファレンスを通して、計画の作成をしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前であっても検討見直しを行っている。	○	日々のカンファレンスの中で、利用者の状態に応じてケアの変更見直しは行なっている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。	○	身体面、精神面、社会性など全体像を把握できるように、記録の形態を作っている。その中でも言動や、行動の意味することをカンファレンスしながら、利用者のニーズを少しでも多く反映していけるように努力している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者が状況に応じてデイの利用できるように、グループホームの多機能性を強化した。	○	医療的に治療が必要になっても、医療連携のサービスを取り入れていることにより、ホーム内でも点滴治療等が可能である。デイサービスも開始し、近隣の認知症高齢者の利用が出来るようになった。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、町内会長や民生委員と意見交換する機会を設けている。	○	管理者が町内に住んでおり、地域住人とも顔見知りであり、常日頃より情報提供しながら関係を保っている。消防とも避難訓練等を依頼し一緒にこなったりしながら協働している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、町内会長や民生委員と意見交換する機会を設けている。	○	ケアマネジャーや、他の事業者とも、事あれば連絡を取り合いながら支援させていただいている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市の職員が参加するようになり、これをきっかけに地域包括支援センターとも関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。	○	ホームだけの取り組みだけでなく、地域包括支援センターとしても、もっと、ホームの現状を把握し、介入できる体制づくりが必要である。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医と連携し、在宅医学総合管理制度を利用し、利用者の健康管理を24時間できるようにしている。	○	夜間、休日等の心配も無く、いつでも受診や身体状況の相談、薬等の問い合わせなどが可能になり安心して支援ができる。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関が内科医であり、診療情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。	○	訪問して診療に当たってくださっているので生活の様子、環境もみれるため、認知症についてのアドバイスや、職員の相談などもすぐに指示を仰ぐことができる。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。	○	看護職員のほか、連携医療機関の看護師も日常の健康状態の把握をしているので相談しながら支援ができている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。	○	入院時は、介護情報を提供し、治療が円滑に行なわれるように相互で情報交換等もしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っていきけるようにしたい。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげていきけるようにしたい。	○	職員や、家族に「繰り返し」ではないので、今後は終末期の支援に対する話し合いの場を作っていきたい。また利用者個々に具体的な支援の方法なども煮詰めていく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随意意志を確認しながら取り組んでいる。	○	今後は、利用者全員のご家族の意向を具体的にお聞きしながら、チームとして支援できるように職員の終末期のケアについての教育等も必要となってくる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。	○	あらかじめ時期がわかっている場合などは、住宅改修などもホームとして助言をさせて頂きながら、ご家族とともにダメージを最小限に出来るように努めている。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの関係により、丁寧語とはいえ言葉遣いをしてしまうことがある。職員会議等の都度、あらためて日々の関わり方や、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の検討に努めている。	○	プライバシーを損ねることがどういうことなのかを、職員全員が同じ認識で理解したうえで、ケアに反映させながら徹底させていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声を掛け、誘導を行なっている。意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、些細なことでも本人が決める場面をつくっている(する、しない等)	○	希望を表出できるような声の掛け方や、希望を選択できるような表現で説明したり、言葉以外の気持ちの表出を見逃さないで理解できるような支援が出来るように努めたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、一人一人の体調、気分などを配慮して無理強いはいしていない。全てにおいて一人一人のペースに合わせているとは言い難いが出来るだけ個別性のある支援に努めている。	○	職員全員が、利用者全員のその日をどう過ごしたいのかを知ろうとする位置にケアの中心においていくことが、理想である。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせ支援をし、また、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。理容は近所の理容店に来てもらい、希望に合わせてカットをしてもらっている。	○	誕生日などには、口紅やけるようなあまこサージュ、腕時計などをプレゼントしたり、身だしなみに気を遣っていただけるような配慮を講じている。理容も定期的に、髭剃りなどもまめにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は、利用者と一緒に作れるもの(ぎょうざなど)作ったり、包丁も使っていたがADL低下のため食器への盛り付けや配膳も少数の利用者となっている。	○	個々のお盆を用意して、配膳・下膳・食器洗い・テーブル拭きと残存能力を活かせる体制を作りたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を大まか理解しており、本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるように支援している。	○	おやつや時間や、外出したときも、好みのものを別に選んで、提供したり、量の加減もしながら、楽しめるようにしている。また本人が飲みたいもの、食べたいものを気兼ねなく言ってもらえるような環境作りをしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意・便意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	○	基本的にトイレで座っての排泄を目標に掲げ、オムツ使用であっても、誘導して、極力トイレでしていただけるようにしたり、利用者個々の排泄状況にあった、パットを選んだり、細かい配慮に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、一応は決めているが体調や気分を尊重しながら、失禁があった場合は清潔保持の為その都度入浴してもらっている。	○	入浴に気分が向かないときなど、曜日の変更をしたり、時間をずらしたり、対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休憩がとれるように支援している。	○	利用者個々に合わせて、居室以外でも、居間の畳で休息を取っていただくことで寂しさを取り除いたり、日中でも睡眠量の把握をしたうえでお昼寝や、朝から二度寝を促したり支援を行なっている。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また個々の他の楽しみごとを尊重し支援している。	○	ホームの一員として、一緒に掃除、洗濯、食事に関することも、なるべく声をかけるようにして、役割を担っていただいている。気晴らしも、個別に買い物に行ったり散歩に出かけたりしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が小遣いを持つことは、自由であるが、買物は持っている小遣いが減らないように立て替えるようにしている。	○	お金を使う機会を、買い物などにお連れできるようなことを増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人、一人、その日の希望とは言い難いが、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買物あるいはドライブ等に出掛けている。	○	自然の中に立地していることもあり、ほぼ毎日ホーム周辺の散歩をしている。外気に触れ、季節を感じ、草花の成長を喜べるように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、場合によっては、家族の協力を依頼することもある。	○	家族の希望もあり、その際はお連れ頂いている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行うとともに、会話が他の利用者には聞こえないよう電話は事務所か子機にて居室にてして頂くように工夫している。	○	手紙のやり取りなども出来るような、機会を作りたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。	○	いつでも、訪問して頂いてかまわない。居室に案内して、一緒にお茶を飲んだり、話が出るように配慮している。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返りはするが身体拘束が行われていないか等を点検するまでにはいたっていない。勉強会などをしながら知識、情報を共有している段階である。	○	職員全員が、更に身体拘束について学びを深め、日々のケアの振り返りをしながら質の向上に努めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。	○	自由にホーム内の移動は出来る。安全の確保がしっかり出来るように、見守りが必要であるが、玄関から出られても、ご一緒について歩いたりしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、おきられた時にすぐに対応できるよう居場所を工夫している。	○	2階の居室は、モニターを利用したり、ご様子が確認できるようにしている。職員がそれぞれチームワークを取りながら、様子を把握して安全に配慮できるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。	○	利用者、それぞれに配慮している。居室に、自宅から持ち込まれたものを、ほとんど、置ける方もいらっしゃるが、ベッド以外置けない方もいらっしゃる。同じ居間に居てもコップ一つ目の前に置けない場合もある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録にまだ至っていないが、万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。	○	行動パターンを知り、日々の身体、精神状態を把握して、ケアの申し送りも徹底させ、事故防止に努めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行なえていないが、夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。	○	全ての職員が応急手当や、初期対応の技術を勉強会や訓練を設けて習得していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、町内会でもお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけている。	○	全ての職員が、避難誘導できる訓練をして、身につけられるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることをご家族に見てもらったり、具体的に説明をしている。	○	面会に来られたときを利用して、ご様子を直接見ていただきながら、今後起こりうる状況等について説明させていただいている。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。	○	体調を、把握して全身状態を観察して、訴えることが出来られない部分に気づくことが出来るように努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化がみられるときは、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。	○	全ての職員が、情報の共有が出来るように薬の一覧表を作っているが、全員の把握が出来ていないので、今後徐々に学びを深められるように努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。それでも排便がないときだけ、下剤・浣腸により排便を促している。	○	飲水量を増やし、散歩など運動を取り入れながら、便秘の予防に努めているが、2日なければ座薬、浣腸などで排便を促している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。毎食後義歯の洗浄を行っている。	○	毎食、丁寧にケアしている。義歯の洗浄も自分でして頂くが、仕上げ磨きをしている。舌や、残歯のケアも忘れず行なっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	全員、三食チェックしていて、一日トータルしての量を確保できるように配慮している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者および家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用したり、1ケア手洗いや、アルコール消毒等の徹底を図っている。	○	予防が何よりなので、職員も含めて、日々の体力を維持して、手洗いの励行に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。新鮮で安全な食材を使用する為、毎日買物に出かけて、なるべく買いためをしないようにしている。また、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を煩雑に行っている。	○	常に衛生管理に努め、塩素系洗剤にて消毒している。食器乾燥機で高温での乾燥を利用している。食材も必ず、日付を入れ、賞味期限等のチェックをして新鮮なものの使用にこころがけている。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、花を生けたり玄関先にプランターを置いたりして、季節感を演出している。	○	花をいけたり、毎年窓辺には、朝顔やへちまを植え、つるを上には這わせ季節感を演出すると同時に日除けの役割も果たし好評である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、桜餅、お餅等五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。また汚物の異臭のない様に徹底している。	○	室温、湿度に留意して、空気洗浄機を使用して調整している。ニオイに関しても、ごみはすぐにホームの外に出し、ニオイがこもることも無い。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダにソファ・椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。	○	畳の間があり、廊下にはソファもあり、ベランダは広く、景色も良い。ゆっくり出空間はたっぷりある。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が泊まりの部屋に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。	○	好みのものが置かれ、写真や、植木なども自由におかれている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子をみながら調整している。	○	温度、湿度を見ながら、エアコンの調整をし、常時空気清浄機は回っており、配慮は充分に行なっている。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境がきているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	○	常に利用者の状態に合わせて、対応している。ベッド柵や、手すりの位置、ミラーを壁につけたり、居間の床にコンセントを配置の工事をしたり、環境作りへの配慮は常に行なっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。	○	混乱や不安が少なくなるような支援が必要。トイレも表示を見てわかるのではなく、繰り返しの行動でわかられる方もいらっしゃるし、利用者個々に合わせた環境作りを目指していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	車椅子の方も外の空気や景色が楽しめるよう、散歩に出かけたり、ベランダで景色を見ながらお茶を楽しめるようにしている。	○	この夏は、暑さが厳しく、外に出る機会が少なかったが、2階のベランダでテーブルを囲んで、おやつにお茶、カキ氷を作って食べたり、楽しく過ごす場となった。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 ○ 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 ○ 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない